

ステップアップ・読書アニメーション

「それがどうした」の読み聞かせから、被爆者へ心を寄せるアニメーションへ(書き下ろし)

佐藤広也

これまでのアニメーションについて

多くの公立図書館の講座でやりました。「源氏物語 1 行目のアニメーション」「枕草子」「徒然草」「絵巻物」「鳥獣戯画のアニメーション」「伴大納言絵詞 応天門の変から司馬遼太郎までのアニメーション」「蒙古襲来のアニメーション」などの古典から、「ヨシタケシンスケによる日本国憲法のアニメーション」「死んだ兵士のアニメーション」「かちかち山のアニメーション」「さんびきのこぶたのアニメーション」「さるかに合戦のアニメーション」「紙芝居」「はらぺこあおむしのアニメーション」「イマジンのアニメーション」「生きるのアニメーション」「はえのみこんだおばあさんのはなしのアニメーション」などがありました。

今回の学校図書館講座の予定では、以下のような 3 つのアニメーションの「予定」でした。

- 1) 英語による「はえをのみこんだおばあさんのはなし」で、英語を学習するアニメーション→ジュディコリンズ、ピーターポープアンドマリーになろう！
- 2) 心がけ主義とルールだけで進まない、感染症のアニメーション→「感染症カルタ」と「はたらく細胞」「感染症キャラクター図鑑」のアニメーション 2020 年 12 月出版の「感染症を授業でどう教えるか」(共著 明石書店)をお読みください。
- 3) 「こやまみねこさんの絵本のアニメーション 北の里から平和の祈り」(北海道新聞 →コーディネート佐藤)「読んでおしまいでは本に戻ってこないのアニメーション」。

ここでは 3 番目についてお話をします。

読んでおしまいでは本に戻ってこないのアニメーション

1 読み聞かせはよい ステップアップし 本が読みたくなるために

読みきかせだけならすぐ終わります。絵本は作りかたが決まっています。ページ数は 2 枚で 1 組一折で 15 節・折で 30 ページです。絵と文がありますから、ほぼ 10 分です。読み着せ方は、工夫がいろいろあります。終わってしまってから、あああの本をもう一度よみみたい、となるのはどういことでしょうか。もう一度確かめてみたいということはどういことなのでしょう。以前の「かちかち山のアニメーション」では 30 冊以上もの「かちかち山」を同時に読むというアニメーションをしました。昔話なのですが、これは狸の背中に火をつけるのですが、現代ではこの火のつけかたは共通認識ではありません。一度この火打ち石と火打ちがね体験を入れると、読んだはず見たはず知っているはずの絵本のウサギの手元から目を離せず、本を読みたくなります。

おおよそ表紙も入れて 30 ページ足らずの宝石箱のような絵本へ読み手を招待し、もう一度読みたくなるということが読書へのアニメーションという思想と方法です。ですから本によっても違います。

今回は、ある絵本について考えます。



2 私たちは勘違いしていないか「会館ができた それはどうした」の本の読み方

2020年に北海道新聞社から出版された絵本があります。児童文化功労賞の作家、こやまみねこさんの書いた絵本です。『北の里から平和の祈り ノーモア・ヒバクシャ会館物語』です。この本は、北海道新聞社が初めて出す絵本です。「新聞社の使命だと思っています。」と北海道新聞社はきっぱりいいました。「初めて」ということで、この本が出版されるまでには相当の苦労がありました。本当は、このお話もしたかったのです。

しかし、今回は、そうではなく、広島、長崎の被爆を考える本のありかたをアニメーションで提起したかったのです。

原爆文学といえば「川とノリオ」でした。漫画といえば「はだしのゲン」でした。今日、国語教育を巡る状況は大きく変わってしまい、長くて、詩的で読みこまないといけない、言い換えると指導に時間がかかる作品はどんどん教科書から落ちていきました。

今は、光村の教科書5年に朽木祥の作品「たずねびと」が書き下ろしとして載っています。中身を扱うよりも、作品の印象や構造などの要素を取り出して「味わう」ことになると、これは読みなのか、国語の指導なのかと首をかしげるという声をよく聞くようになりました。

絵本『北の里から平和の祈り』についての声が聞こえてきました。「いい作品だけど、それがどうした、ということ」だ、ということです。原爆のことなのにどぎつくない、描き方が平板だ、そして、「被爆者会館ができましたという話なんでしょう」、という声があるということです。驚きました。

現在の教師たちの「目」と「心」は、被爆者に寄り添っていないのではないか。作品のどぎつさに頼っているだけではないか、本と人を「つなぐ」仕事をなんとか心得るのか、と思うのでした。私の声は残念ながら、今回、実際のアニメーションができずに届くことはありませんでしたが。

この絵本は、2つの特徴があります。

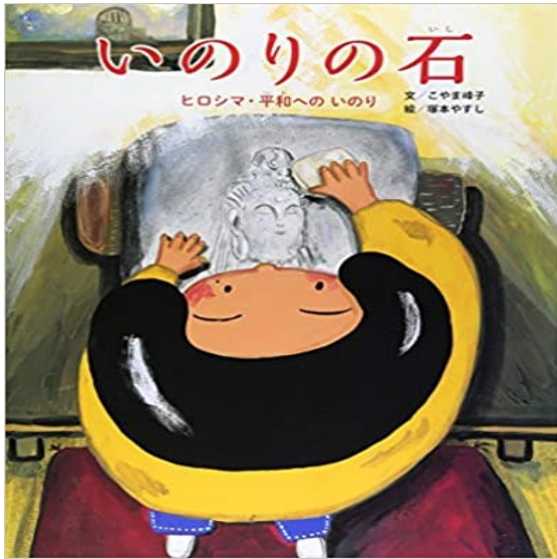
1つは、英訳がのっていること。

2つめは、漢字にルビがふってあるということ。

です。英訳は、北星大学の学生がやってくれました。その経過は、新聞報道されました。英訳は作者のこやまみねこさんが、願ってのことです。特に「小学校から英語が始まるじゃないの。英語を母語とする人ももそうでない人にも読んでもらいたい。」と話していました。これまでもこやまさんの本はアグネスチャンの英訳がついた本がありました。中田喜直による曲もついた作品もありました。

つまり、英語によるアニメーションができるのです。

2つめは、漢字にふりがなをふることで、低学年から読んでいただき推薦図書などに加えてもらえるようにということでした。子どもと本の出会いを確かなものという願いがあったのです。読んでわかることは大変重要です感情を高ぶらせることも重要なことです。しかし、読んだ大人の感想が「それがどうした」だったら、どうなのでしょう。今の子どもたちに「原爆」をどう伝えていくのかは、被爆75年を経た今、「風化」が進み、大変なことです。本を与えるだけ、本まかせでは伝わっていきません。



3 被爆者の声を聞く、ということ

北海道被爆者会館で、実際にこの絵本を会館で子どもから大人までに読み聞かせました。その場には、被爆者の方たちもいらっしやいました。読み聞かせただけなら10分もあればおわるのです。

「あのね、学校に呼ばれるとね、先生方から言われるの。できるだけ生々しく、残酷な出来事を語ってほしいのです、と。でもね、私は長崎で被爆したけど、そんなに生々しく激しく燃えたり吹き飛ばされた場所を逃げて逃げるわけじゃないの。そこを避けてにげたのよ。みんな吹き飛んで死んじゃってるからね・・・。」

というのでした。被爆体験にバイアスをかけてしゃべれ、ということが大変残念そうに話してくれました。

「被爆してから・・・そのときはもちろんけがをしたしね、吹っ飛ばされたからね。で、も、そこから北海道に逃げてくるまでがね、そして被爆のことなんか周り

にしゃべれないしね、差別されたりとか思ったし。不安で不安でしょうがない中で、同じ被爆者がいることがわかってね。だからこの被爆者会館ができたことがものすごく生きる力になったのよ。」と。

この場所は、被爆者会館は、「被爆者」の心のよりどころなのです。

会館には被爆者手帳が展示されています。手帳は、本来は本人がなくなったら返すものですが、交渉の末に展示が決まったものです。この一冊を手に入れるためには並大抵の苦労ではないわけです。北海道被爆者会館に集う人たちの中には、入市被爆者であることが証明できないことで被爆者手帳をもらえない人たちがいました。同様に「黒い雨」がそこに降った証明ができない、とこの手帳をもらえず裁判になったままの人たちもいるではありませんか。

つまり、「被爆者になれない被爆者」のなんと多いことか。そして広島、長崎から逃げるように隠れるように北海道へ移り住んだ人たちがいました。全国3番目の「原爆資料館」をもつ、これが北海道、札幌市なのです。

4 言葉はわるいけどぶっ殺してやる、の声と表現

「はだしのゲン」の作者に会った時、中沢啓次は、「戦争をしようとするやつは言葉は悪いけどぶっ殺してやりたい！」といました。その言葉の重みを私たちは伝えることができるのでしょうか。そのきつい表現が直接的でよい、となるのか。

ゲンたちはどう大人になれたのか、そして広島や長崎から散っていった人々はどうしたのか。私たちは伝えていますか。

ある中学生の女の子がいました。「あのさ、教室のさ、はだしのゲンのまんがさ、最終巻の最後のページ、破いてやったさ。へっへっへ。」

と、随分前の話です。当時でいたシリーズの最終ページにはなんと書いてあったのでしょうか。彼女たちに被爆者の苦しみに共感していたら、こんなことは起きなかったのかもしれない。

さて、この絵本は「被爆者会館ができました」のキャンペーンブックではありません。「それがどうしたって感じ」の本ではありません。「被爆者会館ができた」、という話でもありません。私は何度か北海道でこやまさんと講演で一緒しました。控え室で読まれていた本は「ヒロシマノート」(大江健三郎)でした。

5 広島の修学旅行に行く前には使えるけど

この本には、末尾に、北海道被爆者協会の事務局次長の北明先生(元北海高校校長)によるノーマアヒバクシャ会館の丁寧な会館の解説がついています。それを見て、「修学旅行には使える」という声がありました。「主人公が子ども」で「絵本」では中学高校では使えないということなのでしょうか。この絵本をただの被爆者会館のパンフレットのように思われることがとても悲しいのです。

「物語」は会館の添え物なのではありません。

6 物が語る物語を受け止めるために

では、アニメーションをするためにだれでもできる簡易版
読む前に絵と文を別にして、拡大して画用紙などに貼っておくとよいでしょう。

0 表紙の不思議 この表紙の建物はどこかの何かじっとみましょう。
→原爆ドームなのか？怪しい建物だということ、青いマリア像をもっている子がいる。その後、まず、たんたんと読む 10分。

①「原爆」「被爆者」という言葉は何回あったでしょうか。→なぜほとんどないのでしょうか。

②おとうさんはどこにいましたか。

③おとうさんはなぜそこにいたのですか

→お父さんの存在は、本来健康な男子であれば戦争に行っているはず。造船の街長崎で、お父さんは兵隊と同じ。

④このまちは原爆がおとされるまえはどんな様子だったと思いますか。これまで、この問いは、原爆の絵本の語りではしなかった。それは、このい長崎が造船で潤い、戦争の最先端の街とも言える街であったから。原爆の被害の街は、加害の先端でもあったことも考えるきっかけにすることが大事ではないか。

⑤「被爆者健康手帳」をおばあさんとまりこはもらったと思いますか。→このことはどこにも触れられてはいない。だが、「被爆者」「ヒバクシャ」というが、公的には認定を受けないと「被爆者」にはなれないということをどれほど理解しているのか。もらってももらわなくても→おばあさんとまりこ以外にとっての「被爆者」健康手帳。被爆の事実は消えないのに、1945年8月9日から今まで生き抜くことの大変さを考えるように。

⑥北海道へ渡ってこようとしたのはなぜでしょう。

⑦まりこは、この会館ができるまでどんな不安をもっていたのでしょうか。→この会館はできたことで何かいいことがあったのでしょうか。

⑧なぜ、まりこの家ではマリアを大事にしていたのでしょうか。

⑨全国3番目にできた「会館」ですが、残りの都府県はどうなのでしょう？

⑩この「爆弾」を落とすのはしかたのないことなのですか。落とされるのもしかたがないのですか。

⑪必要な人全員に被爆者手帳は渡ったと思いますか。→今でも黒い雨訴訟が続いていることを話す。できたら手帳を複製して渡す。

⑫では、絵と文をつなげてみましょう。→パネルにしておくとうい。

⑬絵と文をみんなで順番に並べてみましょう。→文と絵を切り離してバラバラにする。英語版もできる。

→「答え」を求め、正解を求めるではありません。この発問の喚びさまずことがらの角度が大事なのです。語り手(アニメーターが 答えらしきものをいってその答えのある場所の絵へ導いてもよいのです。)

→最初の絵。青いマリアは、心のよりどころです。それは、キリスト教だからということでもありません、この「会館」こそは、まりこにとって、多くの「ヒバクシャ」にとっては「マリア」なのでしょう。

→この表紙の絵は、「原爆ドーム」の形をした建物ですが、原爆ドームではありません。実際にその地へ立ち、この会館の後ろにあるものは「札幌ドーム」でした。

→感情語が少ないのはなぜでしょう。

おわりに

北海道被爆者会館で原画を前にアマシオンに参加していたベテラン教員がつくづく思ったといいました。「この絵本、すごい深いってことがわかったわ。」と。絵と文がものすごく考えられているわ、と。

こやまみねさんは詩人でもあります。2020年から使われている光村図書の小4下の教科書に詩が採択されています。

「私は詩人なのよ。だれでもわかる言葉で書けけれど、そこに考えなければわからないことを忍ばせておくのよ。だって詩人ですもの。」

と。楽しくわくわく生き生きと、それが私たちの本読みの願いです。

佐藤広也(さとうひろや)

札幌市学校図書館協議会、北海道学校図書館協会(研究部)。

北海道教育大学、北海道大学、非常勤講師(国語・生活・社会・教育課程・総合的な学習の指導法など)。

北海道読書のアニメシオンの会代表。全道の公立図書館や教育委員会、学校でアニメシオンの実演や講座を担当。著書共著多数。最近刊は「感染症を授業でどう教えるか」(共著 明石書店)、北海道教育学会年報など。「かちかち山のアニメシオン」は実際に火打ち石を使いながら30種類の「かちかち山」を読むアニメシオン。絵本・紙芝居・彫刻・憲法・ザリガニ・俳句・動物園を準備範囲とする。年齢は0歳から90歳まで。図書館・学校・老人クラブ・高齢者大学。いつでもどこへでもランクをもってでかけます。呼んでね。